

発酵オーガニックだより

～ぷくぷく講座開催！～

松葉パワー！ 松葉と発酵を学ぼう

5月31日、道の駅「発酵の里こうざき」にて、第2回ぷくぷく講座「松葉と発酵」を開催しました。

松葉を活用した食品や日用品について紹介され、松ジュースや松スムージーといった香り豊かな飲み物を試飲。さらに、松葉を使って発酵させた納豆やヨーグルトも提供され、参加者の皆さんはその風味と活用の幅広さに驚いていました。

また、松葉を使った調味料づくりにも挑戦し、松葉醤油や松葉酢、松葉オイルなどを和気あいあいと楽しみながら手作りしました。

昼食には、松葉をふんだんに使った「松づくし」のランチを味わい、楽しいひと時を過ごしました。



▲松葉醤油と松葉酢完成！

合併70周年記念 昭和100年で振り返る神崎今昔／ 歴史と伝統が息づく 神崎中学校

神崎中学校は昭和31年（1976）に旧米澤中学校と旧神崎中学校が統合し開校されました。開校当初から校舎の場所は変わらず、昭和39年（1964）の校庭拡張とプールの新設、昭和40年（1965）の別棟の技術室完成、昭和53年（1978）の体育館竣工、昭和58年（1983）に鉄筋コンクリート造の新校舎竣工を経て現在の神崎中学校になりました。



▲昭和30年代の神崎中学校



▲現在の神崎中学校

～神崎歴史巡り～ 町指定文化財 神宮寺

神宮寺は9世紀頃に神崎神社の別当として創建され、近世には四国八十八ヶ所を移した第九番札所として近郷庶民の信仰を集めてきました。

神宮寺仁王門は、間口10尺足らずの四脚門で、木割りが細く屋根は切妻造になっています。木柱は一般的な円柱ではなくごひらの柱で、柱天に縦長断面の冠木をおいています。建立は江戸時代中期（17世紀後半）とみられていますが、本柱や冠木の形式が通常の四脚門とは違っており、また臺座を蹴放から造り出しとする珍しい造りとなっています。

「大非閣」とも呼ばれる観音堂は柱総間26尺弱の方三間の堂で、屋根は寄棟造となっており、元禄年間（1688～1704）に建立されました。向拝や外陣の複雑な架構は江戸時代中期以降に関東地方の仏堂で多く用いられた形式で、時代を象徴する貴重なものとなっています。

昭和59年に町指定文化財とされ、現在まで当時の神崎町の文化や信仰の様子を伝えています。



▲神宮寺観音堂